



かがみ なに
鏡は何でできているの

そと くら まど かがみ
外が暗いと、窓ガラスが鏡のようになる

よる でんしゃ の まど かがみ
夜、電車に乗っていると、窓ガラスが鏡のようになって、自分の顔や車内のようすがうつります。ガラスの表面は光を反射していますが、昼間は、ガラスの向こう側からくる光が、その反射よりもはるかに強いために、反射した光はよく見えないのです。ところが、夜になって外が暗くなると、ガラスの表面で反射した光が見えてきて、鏡のようになり、窓ガラスにうつります。

いた ぎん まく
ガラスの板と銀のうすい膜

かがみ
鏡は、ガラスの板と銀のうすい膜、鉄などを材料にして作ります。ガラスの板の表面は平らでなめらかなので、表面でも光は反射しますが、ガラス板の後ろにうすい銀の膜をはりつけます。銀の膜は、光を全部反射するので、よくうつる鏡ができます。このように、鏡は、ガラス板に銀をうすくぬって作った、簡単なものです。（監修・小川 格）

